

関西経済レポート(9月号)

- 7月の鉱工業生産指数は前月比+0.8%と2カ月ぶりのプラス。生産は緩やかな回復軌道にある
- 8月の輸出額は前年比+1.3%と17カ月連続の増加。輸入額は同-1.7%と3カ月ぶりのマイナス。結果、貿易収支は+446億円と6カ月ぶりの黒字となり、赤字幅は同+525.4%と375億円改善した。
- 8月の景気ウォッチャー現状判断DIは4カ月ぶりに悪化。同月の消費者態度指数も5カ月ぶりの悪化。これまで続いていた消費者心理改善の動きが停滞してきた。
- 8月の大型小売店販売は2カ月連続の小幅プラス。駆け込み需要の反動減の影響は和らぎつつある。
- 8月の新設住宅着工戸数は前年比+10.6%と大幅に増加し4カ月ぶりのプラス。貸家と分譲の2ケタ増が影響した。
- 8月の有効求人倍率は前月から横ばいとなり、改善に一服感が見られる。一方で、新規求人倍率が2カ月連続で下落しており、企業の新規求人意欲が弱まっている。失業率は4.0%と大幅改善となったものの、非労働力人口の増加が失業率低下の要因とみられる。
- 8月の公共工事請負金額は前年比-2.0%と6カ月ぶりのマイナス、季節調整値も3カ月連続の前月比マイナスとなった。7月の建設工事は前年比+4.9%と27カ月連続のプラスも、伸びは4カ月連続で一桁と減速傾向。
- 8月の工業生産は、前年比+6.9%と前月より大幅に減速。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所
“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

～ 関西経済のトレンド ～

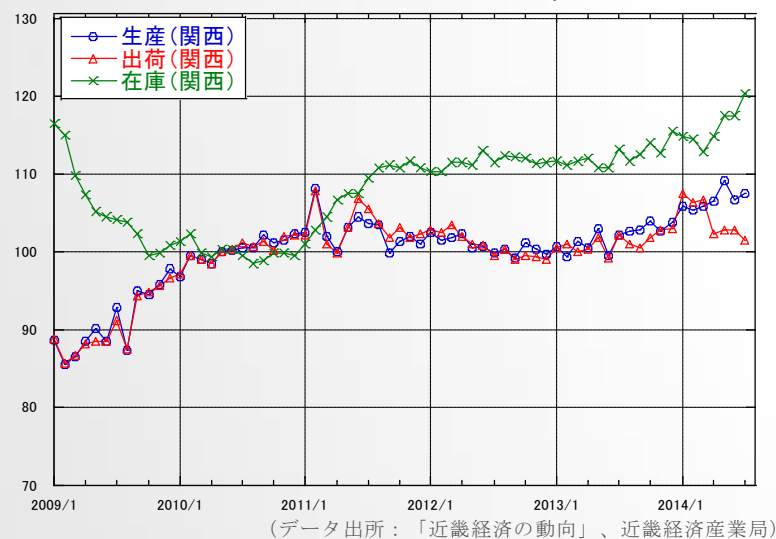
	2013年				2014年							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
生産	↓	↑	→	→	→	→	↓	↑	↑	↓	↑	
貿易	↑	↑	↑	↓	↓	↑	↓	↑	→	↓	↑	→
センチメント	↑	↓	↑	→	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↓
消費	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↓	→	→	→	↑
住宅	↑	↑	↑	↑	↑	↓	→	↑	↓	→	↓	↑
雇用	↑	→	↑	↑	↑	→	→	→	↑	→	→	→
公共工事	→	→	↑	↑	↓	↓	↓	↑	↑	→	→	→
中国	↑	→	→	→	→	→	→	→	→	↑	↑	↓

～目次～

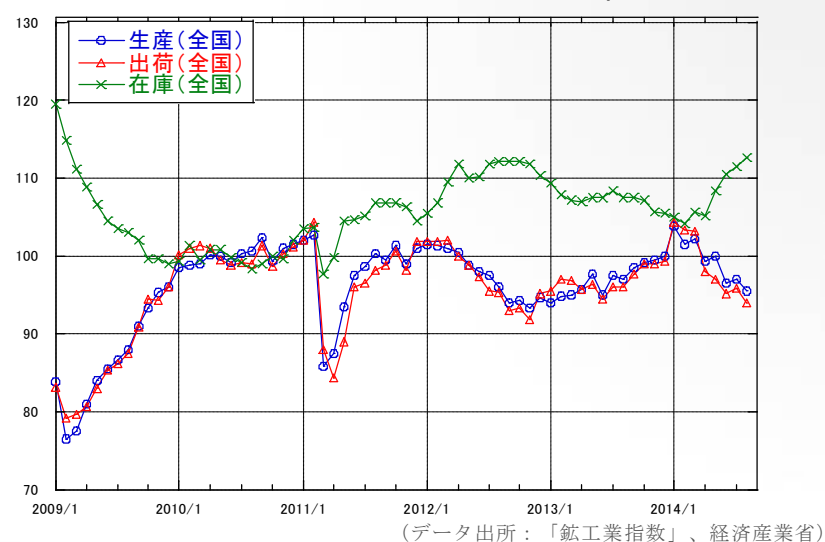
生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

～生産～

鉱工業指数の推移(近畿・2014年7月まで), 2010年=100



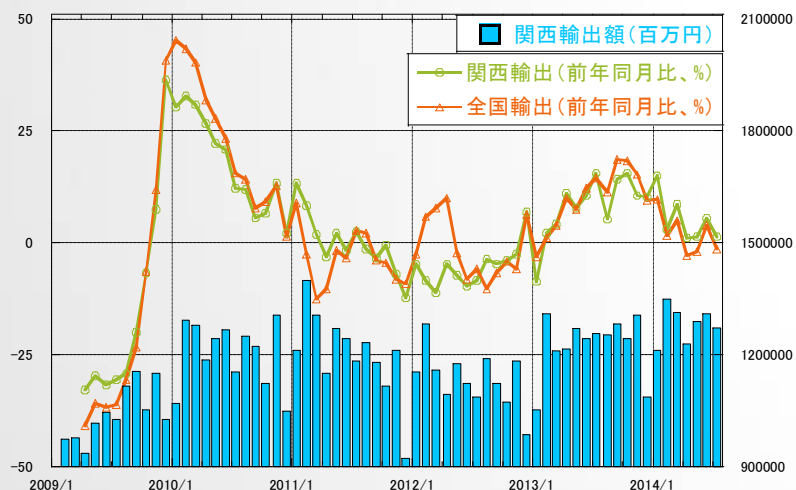
鉱工業指数の推移(全国・2014年8月まで), 2010年=100



- 関西における7月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済)は、生産は107.6で前月比+0.8%と2カ月ぶりの上昇、出荷は101.6で同-1.3%と3カ月ぶりの下落。在庫は120.4で同+2.4%と4カ月連続の上昇であった。
- 業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(同+15.0%)、電子部品・デバイス(同+8.6%)、窯業・土石製品(同+1.5%)等が上昇した。一方、電気機械(同-8.4%)、金属製品(同-6.8%)、輸送機械(除. 航空機・鋼船・鉄道車両)(同-5.9%)等が下落した。
- 生産は緩やかな回復軌道にある。
- 全国における8月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は95.5となり前月比-1.5%、同月の出荷は94.1で前月比-1.9%といずれも2カ月ぶりの下落。在庫は112.7で同+1.0%と4カ月連続の上昇となった。特に、在庫はリーマンショック後の2009年2月以来の高水準となった。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同-7.4%)、輸送機械(同-3.8%)、電気機械(同-3.2%)等を中心に減産となった。一方、化学(除. 医薬品)(同+4.1%)、電子部品・デバイス(同+4.9%)、鉄鋼(同+0.4%)等は増産となった。
- 7-8月平均の生産を4-6月期平均比で見れば、前期比-2.4%と2期連続のマイナス(4-6月期は前期比-3.8%)となった。製造工業生産予測調査では、9月の増産幅(前月比+6.0%)は前月の予測調査(同+3.5%)から上方修正となった。10月(同-0.2%)は小幅減産の予想であり、足下、生産は弱含んでいるものの、今後は緩やかな回復に向かう見込みである。

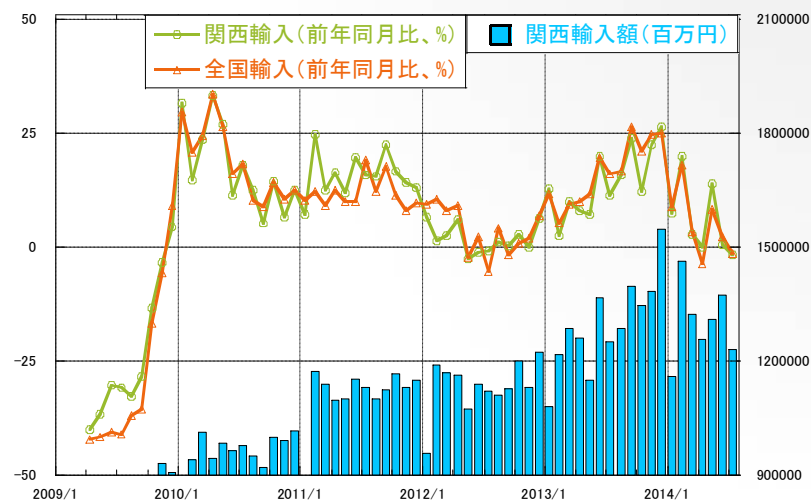
～輸出入～

輸出動向（右：輸出額、左：前年同月比）(2014年8月まで)



(データ出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課)

輸入動向(右:輸出額、左:前年同月比)(2014年8月まで)

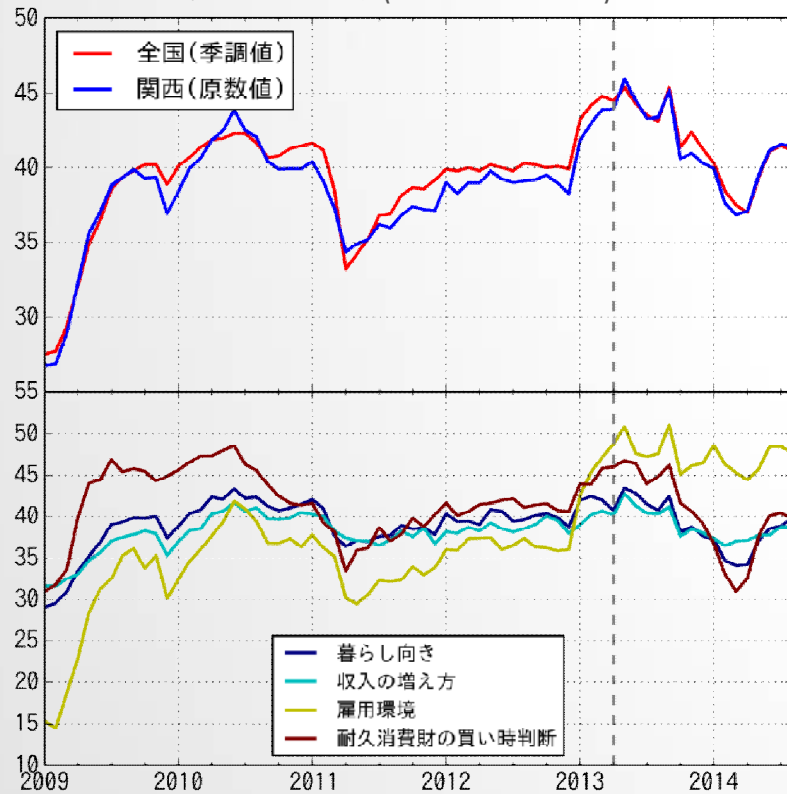


(データ出所：「財務省貿易統計」、財務省)

- 関西8月の輸出額（速報値）は1兆2,735億円、前年同月比+1.3%と18カ月連続の増加だが、6カ月連続で伸び率は1桁の伸びにとどまっている。
- 輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品、建設用・鉱山用機械であった。
- 全国8月の輸出額（確定値）は5兆7,063億円、前年同月比-1.3%と2カ月ぶりの減少。財別に見れば、有機化合物、自動車、鉱物性燃料等の輸出が減少した。
- 8月関西の輸入額（速報値）は1兆2,288億円と前年同月比-1.7%と3カ月ぶりのマイナス。
- 財別に見れば、衣類及び同付属品、通信機等を中心に減少。ただし、天然ガス及び製造ガス、石油製品は増加し、いずれも単月過去最高額を記録した。
- 全国8月の輸入額（速報値）は6兆6,560億円、前年同月比-1.4%と3カ月ぶりのマイナス。財別に見れば、原粗油、石炭、通信機等の輸入が減少した。
- 結果、関西の貿易収支は+446億円と6カ月ぶりの黒字となり、前年同月比+525.4%と375億円増加した。全国の貿易収支(確定値)は-9,497億円と26カ月連続の赤字となり、赤字幅は同-2.2%縮小した。

～消費者センチメント～

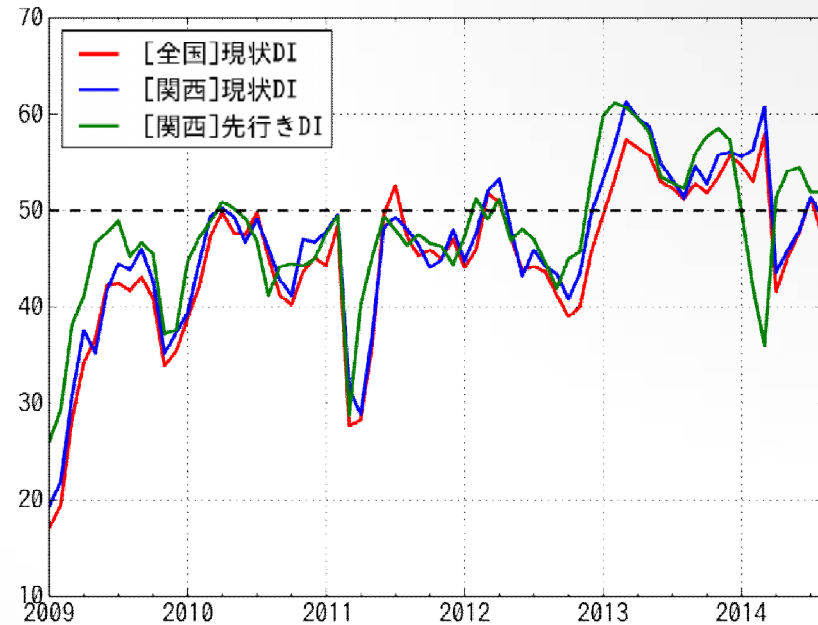
消費者態度指数(2014年8月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」(平成26年9月9日公表)

- 関西の8月の消費者態度指数(原数値)は前月比-0.1ポイントの41.5と、5カ月ぶりの悪化。これまで続いていた消費者心理の改善の動きが停滞してきた。
- 同指数の構成項目をみると、「暮らし向き」は同+1.0ポイントと5カ月連続のプラス。「耐久消費財の買い時判断」は同-0.6ポイントと5カ月ぶりのマイナス。「収入の増え方」は同横ばい。「雇用環境」は同-0.7ポイントと前月(同横ばい)から下落に転じた。
- 全国の8月の消費者態度指数(季節調整値)は41.2となり、同-0.3ポイントと4カ月ぶりの悪化。

景気ウォッチャー調査(2014年8月まで)

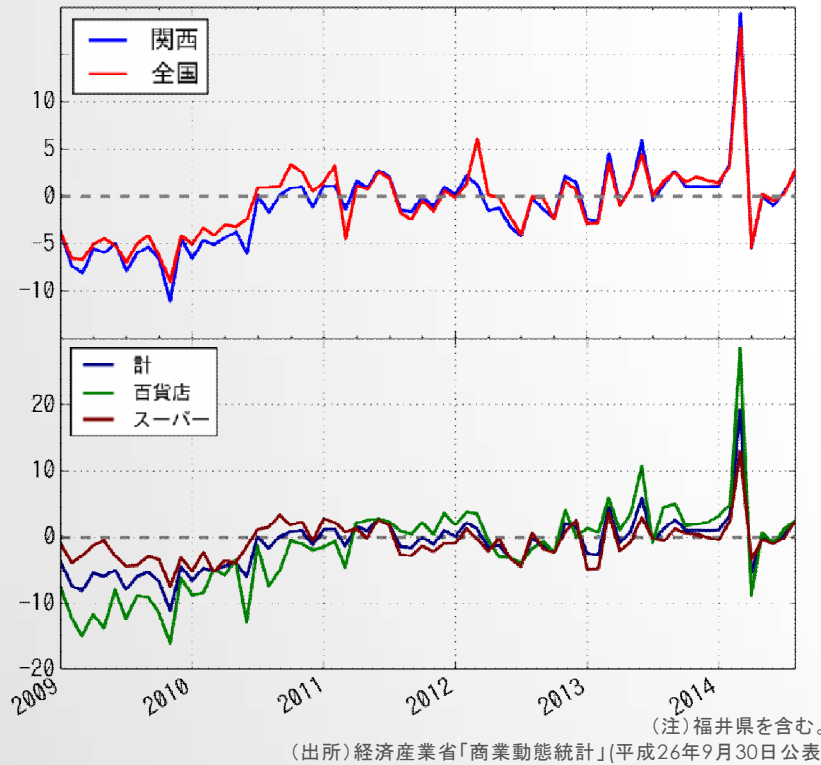


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」(平成26年9月9日公表)

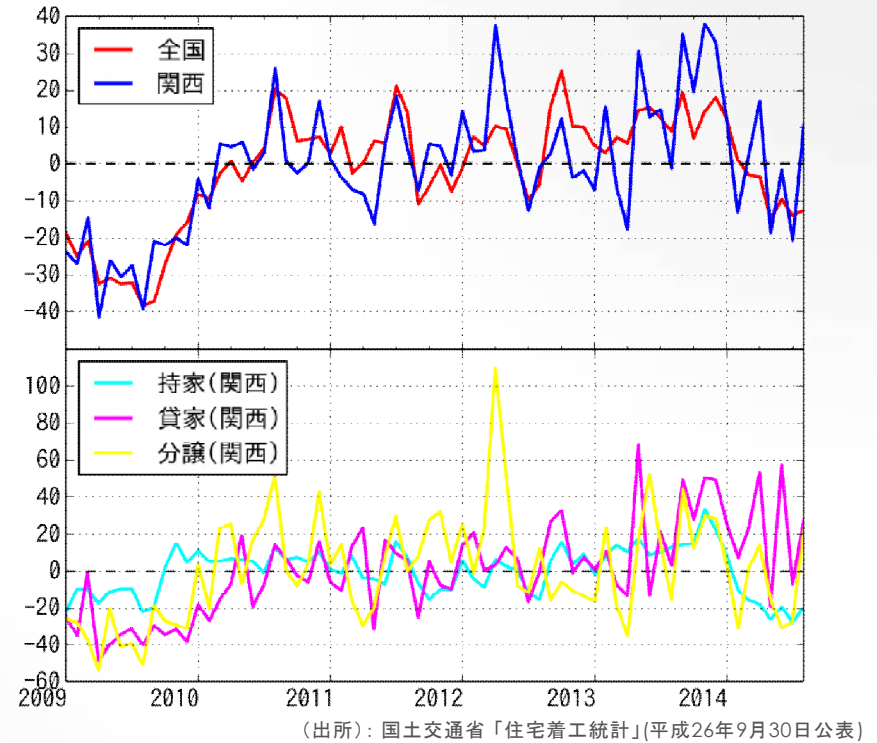
- 関西の8月の現状判断DIは前月-2.1ポイントの49.3と4カ月ぶりの悪化。
- 消費増税の影響や台風等の天候要因が指数の悪化につながった。
- 全国も同-3.9ポイントの47.4と4カ月ぶりの悪化。
- 先行き判断DIは、関西では前月比横ばいの51.9。
- 全国では同-1.1ポイントの50.4と3カ月連続の悪化となっている。

～個人消費・住宅～

大型小売店販売額(前年同月比:%、2014年8月まで)



新設住宅着工(前年同月比:%、2014年8月まで)

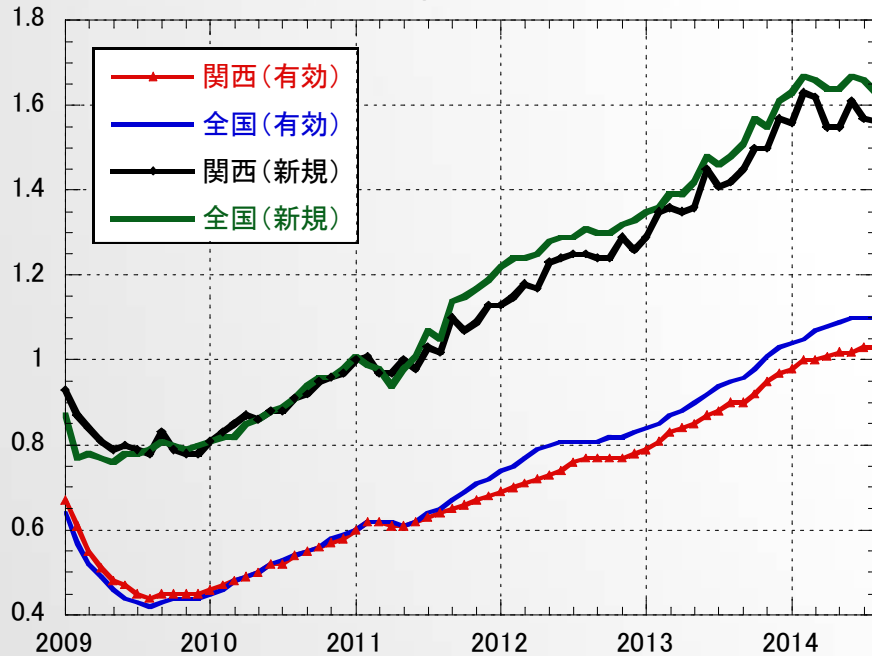


- 関西の8月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+2.4%と2カ月連続のプラス。
- 百貨店も同+2.4%と2カ月連続のプラス。
- スーパーも同+2.4%と5カ月ぶりにプラスに転じた。
- 消費増税から5カ月が経過し、駆け込み需要の反動減の影響は和らぎつつある。
- 全国でも、8月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+2.8%と2カ月連続のプラスとなっている。

- 関西の8月の新設住宅着工戸数は12,764戸。前年同月比+10.6%と4カ月ぶりのプラス。
- 一方、全国では同-12.5%と6カ月連続で下落している。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-19.5%と7カ月連続の2桁減となった一方で、貸家が同+27.7%と2カ月ぶりの大幅増、分譲も同+22.8%と4カ月ぶりの大幅増(うちマンション:同+81.4%、一戸建:同-18.6%)となった
- なお8月の関西マンション契約率は70.3%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を35カ月連続(原数値は7カ月連続)で上回ったものの、勢いは徐々に減速している。

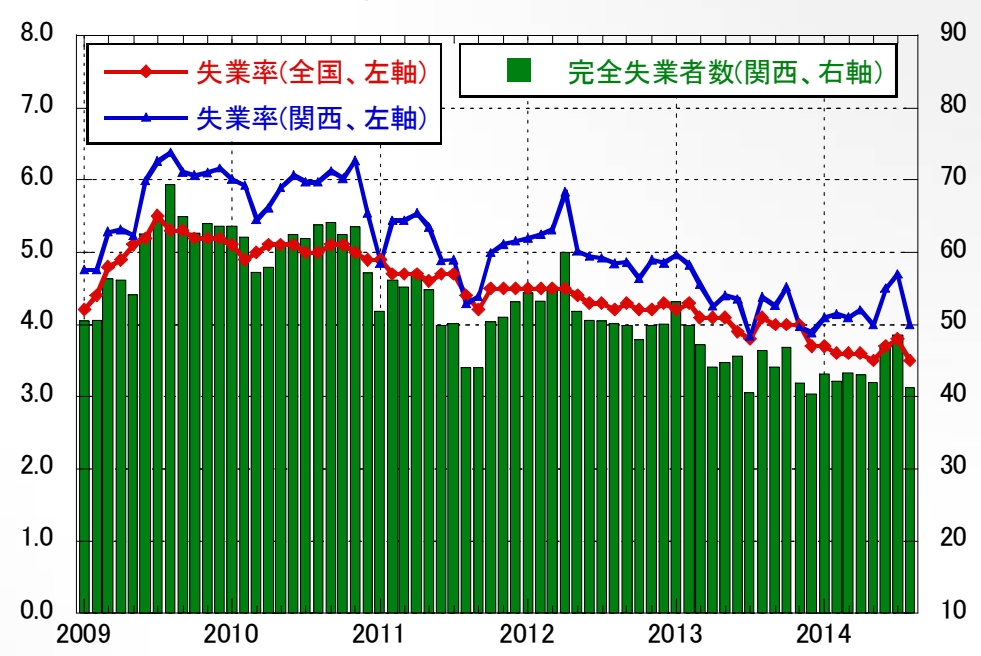
～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2014年8月まで）



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」（2014年9月30日公表）

完全失業率の推移（季節調整値：%、万人、2014年8月まで）



（出所）総務省「労働力調査」（2014年9月30日公表）

関西2府4県有効求人倍率(2014年8月)

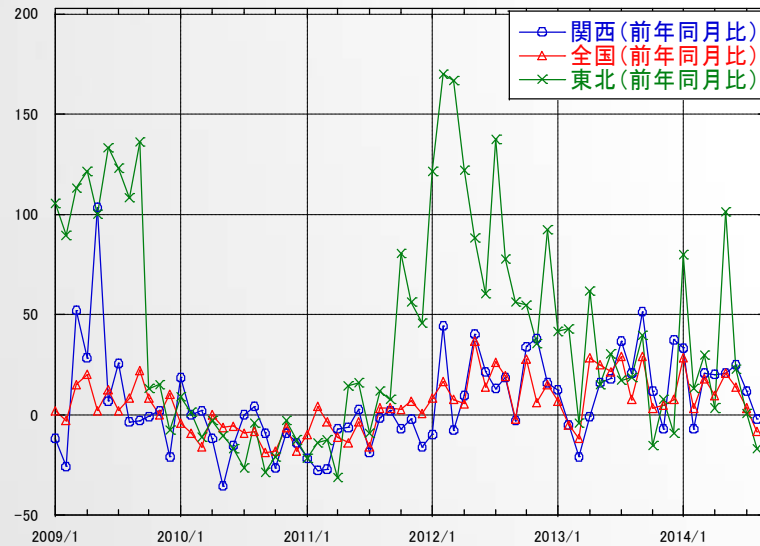
8月	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
受理地別	1.10	1.03	0.97	1.05	1.14	0.89	0.89	1.05
就業地別	1.10	1.02	1.14	1.08	1.00	0.97	1.01	1.12

- 8月の関西の有効求人倍率は、1.03倍と前月比横ばい。7カ月連続で1倍台を上回ったものの、横ばい傾向で推移。全国は1.10倍で2カ月連続の前月比横ばいとなり、改善に一服感があるものの、1992年6月(1.10倍)に並ぶ高水準を維持。
- 8月の関西の新規求人倍率は、1.56倍と前月比-0.01ポイント下落し、2カ月連続の下落。全国は1.62倍と同-0.04ポイントで2カ月連続で下落、共に新規求人意欲が弱まっている。
- 関西の有効求人倍率を府県別にみると、受理地別では大阪府と和歌山県が小幅上昇。就業地別では大阪府で1倍台を回復したものの、滋賀県で0.03ポイント下落した。

- 8月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は4.0%となり、前月(4.7%)から-0.7ポイント下落し、3カ月ぶりの改善となった。非労働力人口の増加が失業率低下の要因とみられる。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は41.3万人。前月(48.6万人)から7.4万人減少した。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.5%となり、前月(3.8%)から-0.3ポイント下落。こちらも3カ月ぶりの下落となった。女性の非労働力人口が大幅に増加したことが失業率を押し下げた。
- 全国の就業率(原数値ベース)をみると、72.8%と前月(72.6%)と比べて上昇しており、引き続き好調を維持。

～公共投資～

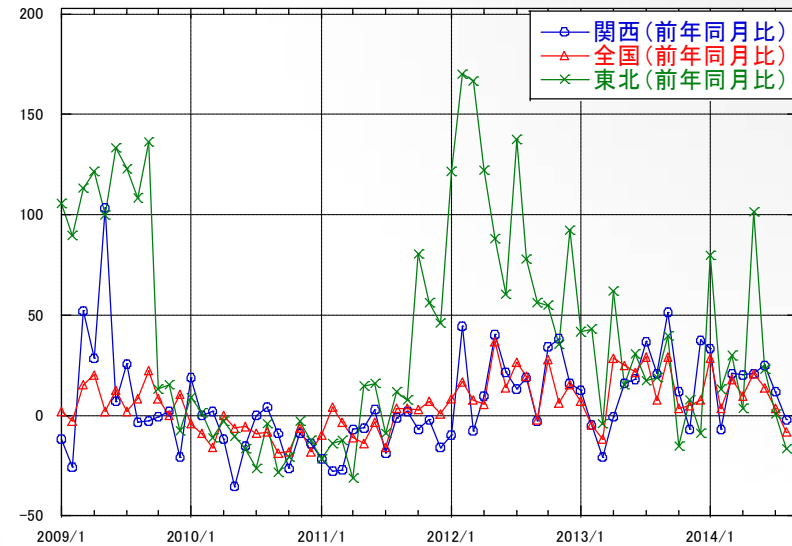
公共工事請負額(前年同月比:%、2014年8月まで)



(注) 福井県を含む。
 (出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

- 8月関西の公共工事請負金額は1,167億円。前年同月比-2.0%と6カ月ぶりのマイナス。
- 全国は1兆1,276億円と同-8.1%、17カ月ぶりのマイナス。
- 東北は2,150億円で同-16.9%と、8カ月ぶりのマイナス。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国とも3カ月連続の前月比マイナス(関西：同-15.8%、全国：同-21.2%)となった。請負金額の伸びは関西、全国共に減速感が強まっている。

建設工事(前年同月比:%、2014年7月まで)

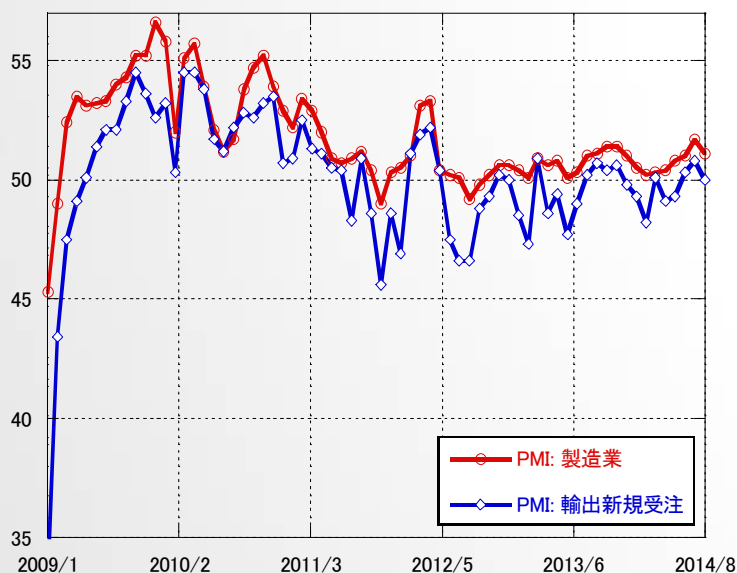


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西7月の建設工事は4,756億円。前年同月比+4.9%と27カ月連続のプラスも、伸びは4カ月連続で一桁となった。
- 東北は4,732億円、同+8.9%と36カ月連続のプラスも、14カ月ぶりに伸び率は一桁となった。
- 全国は同+2.8%増加し3兆7,382億円となり同+0.5%と29カ月連続のプラスだが、9カ月連続で伸びは減速。
- 全国的に建設工事の伸びは減速傾向にある。

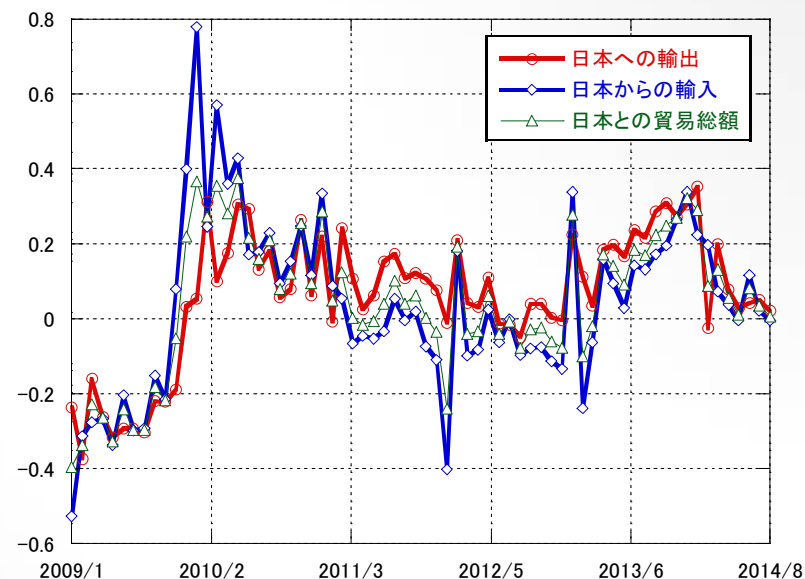
～中国経済動向①～

中国製造業購買担当者景況指数 (2014年8月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年8月まで:%)



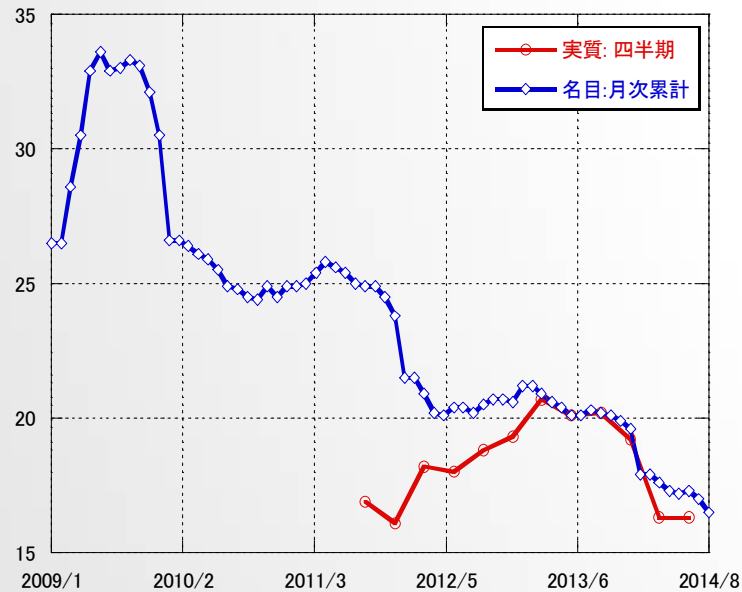
出所：中国海关总署;CEICデータベース

- 8月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、前月から-0.6ポイント低下し、51.1となった。6カ月ぶりの悪化。
- うち、生産指数は53.2と同-1.0ポイント減速し、4カ月ぶりのマイナス。新規受注指数は52.5となり、同-1.1ポイント減速し、6カ月ぶりのマイナス。輸出新規受注は同-0.8ポイント小幅減速し50.0となり、3カ月連続で50を上回った(4カ月ぶりの悪化)。一方、雇用指数は48.2となり、同-0.1ポイントと低下し、2カ月連続の悪化。2012年6月以来、26カ月連続で51を下回っている。

- 8月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+9.4%増加し、5カ月連続のプラスとなった。輸入額は同-2.3%(速報値)となり、2カ月連続のマイナスとなった。
- うち日本への輸出額は同-3.1%となり、前月(+2.9%)からマイナスに転じた。日本からの輸入額は同-5.3%となり、前月(+0.1%)からマイナスに転じた。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+1.9%となり、6カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同-0.4%となり、前月(+2.1%)からマイナスとなった。

～中国経済動向②～

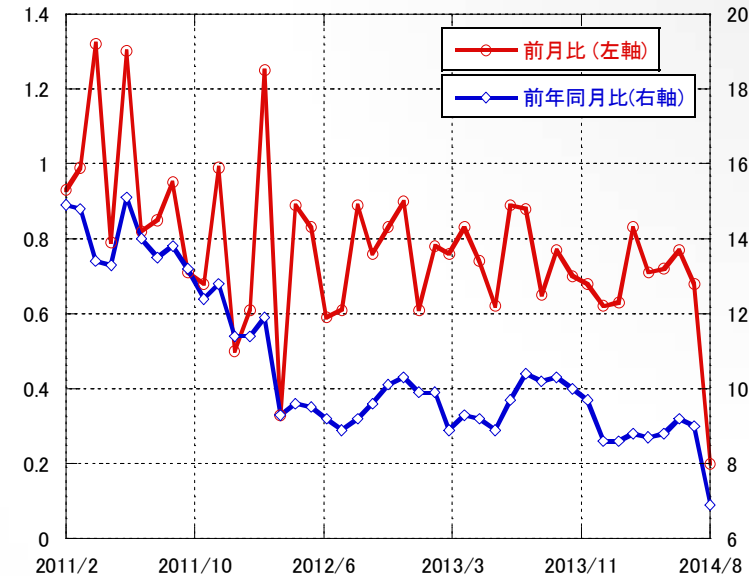
固定資産投資 (2014年8月まで:%) (累積伸び率)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 2014年1-8月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+16.5%と2カ月連続の減速(1-7月期(同+17.0%))となった。
- 産業別に見れば、第1次産業は同+26.3% (前月+25.1%)、第2次産業は同+13.7% (前月+13.9%)、第3次産業は同+18.2% (前月+19.2%) となった。

工業生産動向(2014年8月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 8月の工業生産は、前月比+0.2%と2カ月連続の減速(7月：同+0.7%)となった。前年同月比は+6.9%と前月(+9.0%)より大幅に減速した。
- 産業別に見ると、鉄道・輸送機器製造業(前年同月比+16.1%)、金属製品製造業(同+11.9%)、有色金属の製錬・圧延加工業(同+11.1%)、医薬製造業(同+10.6%)が高い伸びを示す一方で、繊維工業(同+5.7%)、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+3.5%)は比較的低調な伸びにとどまった。電力・熱力生産・供給業(同-1.7%)は前年同月から減産した。